

ごあいさつ

白岡市教育委員会教育長 長島 秀夫

戦後の民主教育が始まり、70年が経とうとしています。この間、社会は急速に進展しました。生活の利便性は飛躍的に向上し、人々の価値観は多様なものとなりました。物質的にも豊かな生活が送れるようになった一方、少子・高齢化やグローバル化への対応など、社会全体で取り組む課題も明確になっています。私たちはより広い視野で、様々な価値観をもつ人びとも交流を深め、解決に向けて協働して取り組んでいくことが求められています。

このような中で、白岡市では、「活力ある学校づくり」の推進に取り組んできました。学校は、相互に関わりを深めながら、学ぶ楽しさと出会い、生涯学び続ける態度の基礎づくりがなされる場です。文部科学省・埼玉県教育委員会から人権教育総合推進地域事業の委託を受けて3年目、市内の4つの中学校区では小中の連携を深め、人権教育の取組がなされてきました。そしてこの度、菁莪小、中学校を会場に研究発表会を開催するに至りました。

菁莪小学校では「豊かな心をもち、よりよい人間関係を築こうとする児童の育成 ～みんなの思いや考えを話し合い、協力し合う活動を通して～」の研究主題のもと、特別活動と道徳を中心に熱心な研究を進めてこられました。互いの心を通わせ、潤いある人間関係がつけられる子供の育成に、日々の学校生活を中心とし、丁寧な取組を継続してこられたことと思います。

これまで本研究の取組を牽引してくださいました菁莪小学校 高野真一校長先生をはじめ、日々の実践を積み重ねてこられた教職員の皆様のご努力に深く敬意を表しますとともに、本研究を支えてくださいました保護者の皆様、地域の皆様方に感謝申し上げます。この度の取組と成果が今後の教育活動に生かされ、広く市内外の教育実践に寄与されますことを心からご期待申し上げます。

ごあいさつ

白岡市立菁莪小学校長 高野 真一

本校は、平成26・27年度の2か年間、白岡市教育委員会より研究学校並びに人権教育研究推進校としての指定を受け、全教育活動を通して取り組んできました。研究主題を「豊かな心をもち、よりよい生活や人間関係を築こうとする児童育成 ～みんなの思いや考えを話し合い、協力し合う活動を通して～」として、特に、道徳(16年目)と特別活動(学級活動・6年目)を中心に、研究を継続させて推進してきました。

また、本校は「『ありがとう』がこだまする元気な学校」を目指しております。「ありがとう」をキーワードに、感謝の気持ちを言葉に表せるよう日々の教育活動で取り組んでおります。

校内で実施した人権アンケート結果から、「命の大切さ」や「友達の大切さ」の項目で、ほとんどの児童が肯定的に受け止めています。反面、「自己肯定感」「自己有用感」等の自他を尊重する態度は、肯定的に思う割合が低い傾向にあります。そこで、自分の大切さと共に他の人の大切さを認め、他者の痛みを共有できる共生の心を育むことができるよう、様々な教育環境を整えていくことが、未来を担う子供達のためにも学校の重要な役割と受け止めます。

研究は、まだ緒についたばかりですが、本日の研究発表会のみならず、今後の研究につきましても、児童一人一人の自己肯定感やともに支え合い、自他の人権を尊重する態度が、より一層高まるよう“チーム菁莪”の実践研究を積み重ねて参ります。ご参会の皆様から、ご忌憚のないご指導、ご助言を賜りたいと存じます。

結びに、これまでご指導いただきました東部教育事務所、白岡市教育委員会の先生方をはじめ、関係機関の諸先生方に衷心より感謝申し上げ、あいさつといたします。